

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

木更津市長

市町村名 (市町村コード)	木更津市 ( 12206 )
地域名 (地域内農業集落名)	金田東地区 ( 牛込 )
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年11月28日 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

当地区は平坦な土地が多く、雨水がはけにくい環境にあったため、伝統的に稲作を中心に農業が行われてきた。その土壌から農地を田から畑地に転換することが難しく、野菜などの作物を栽培するうえで厳しい環境にある。担い手については稲作に特化した農業を行っているため、新規就農者の参入が課題となっているが、認定農業者を中心に耕作が行われており、スマート農業などの新技術を導入し、農業の効率化を図っている。

また、当地区の周辺では土地開発が進んでおり、近年、離農や耕作放棄地の増加が発生している。また、水路の管理や整備についても今後の農地を維持・拡大するうえで検討する必要がある。

## 【地域の基礎的データ】

主な作物:水稲

## (2) 地域における農業の将来の在り方

中間管理機構への貸し付けによる農地の集積・集約化をさらに進め、地域住民や農業従事者の意見を踏まえながら農業の効率化を目指し、今後の農業を継続・拡大していくうえで基盤整備の必要性を検討する。また、耕作放棄地を改善するため、新規参入を手助けできる地域環境を構築し、担い手の確保に取り組む。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	48.63 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
令和5年度に中間管理機構への貸付けによる機構集積協力金を申請し(一般地域:区分2)、50%弱の農用地の集積が図られているところであるが、今後も認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域の農地の貸し借りは農地中間管理機構の活用を促進し、担い手の経営意向に沿った農地の集積・集約化を段階的に図っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
関係機関の情報や地方公共団体等の支援策を活用し、継続的に農業を行えるよう基盤整備を農業者や地域内で検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地方公共団体やJA等との連携を図りながら、地域ぐるみで担い手の確保・育成に取り組み、農地を守っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域内で作業受託を行う事業体への農作業の一部を委託することで、農作業の効率化を図り、農業経営を維持できる体制を作る。併せて、農業支援サービスを行う事業体の情報を集約化し、地域内で共有することで、作業受託を必要とする経営体が積極的に活用できる環境整備を行う。これにより、地域全体の農業経営を維持することで、遊休農地の発生防止を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

①鳥獣被害防止対策

水稻を中心に鳥類はカモ、スズメ、獣類はイノシシ、アライグマが原因の農作物被害が発生しているため、被害防除対策を検討する。

③スマート農業

現在、スマート農業に取り組んでおり、継続・拡大を目指したいと考えている。具体的には通信環境の整備を行い、より精密で正確な情報をもとに耕作が行えるような環境整備を検討したい。

⑨その他(蜜苗の導入検証)

苗を栽培する面積が減少することで効率化が図れたり、水稻の面積をさらに拡大することが期待され、耕作放棄地の改善につながるため、今後導入検証を行う。